

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 31 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 楠 谷 清

所属・資格 法学部 ・ 教授



下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究/一般研究(個人)/ <u>一般研究(共同)</u> /総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	日本の税制改革の方向と課題																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 楠 谷 清 研究分担者 (役割分担) 楠 谷 清 (研究代表・統括責任者、最適税制の理論研究) 山口 正春 (欧米における税制改革の歴史と理念) 坂井 吉良 (データ収集と統計・計量分析) 																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>楠谷清・山口正春・坂井吉良</td> <td>政経研究/「日本の税制改革の方向と X tax」</td> <td>第45巻 第2号</td> <td>平成20年 9月</td> <td>日本大学法学会</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	楠谷清・山口正春・坂井吉良	政経研究/「日本の税制改革の方向と X tax」	第45巻 第2号	平成20年 9月	日本大学法学会																									
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
楠谷清・山口正春・坂井吉良	政経研究/「日本の税制改革の方向と X tax」	第45巻 第2号	平成20年 9月	日本大学法学会																																			

※ホームページ等での公開の (可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日

その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)

氏名	提出物	内容	数量

7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)

(知的財産権の取得)

(外部資金の獲得)

(他の研究への発展)

(その他)

* 課題番号	共07-002
--------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年3月26日

日本大学 総長 殿

氏 名 小笠原 隆夫



所属・資格 芸術学部映画学科・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。																												
2 研究課題	談話収録による個人を対象とした映画史の資料収集																															
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 小笠原 隆夫 (全体総括, シナリオ) ・研究分担者 (役割分担) 高野 徹 映画技術 (撮影) 宮沢 誠一 演出 田島 良一 映画史 齊藤 裕人 演出 鳥山 正晴 演出 奥野 邦利 映画演出 広沢 文則 映画技術 (撮影) 上倉 泉 映画技術 (録音) 松島 哲也 演出 横川 眞顯 映画理論																															
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																								
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																													
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 共著： 小笠原 隆夫, 高野 徹 宮沢 誠一, 田島 良一 齊藤 裕人, 鳥山 正晴 奥野 邦利, 広沢 文則 上倉 泉, 松島 哲也 横川 眞顯 </td> <td>『個人別領域別談話収録による映画史大系』</td> <td>19</td> <td>平成20年 3月</td> <td>芸術学部映画学科</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	共著： 小笠原 隆夫, 高野 徹 宮沢 誠一, 田島 良一 齊藤 裕人, 鳥山 正晴 奥野 邦利, 広沢 文則 上倉 泉, 松島 哲也 横川 眞顯	『個人別領域別談話収録による映画史大系』	19	平成20年 3月	芸術学部映画学科																		
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																												
共著： 小笠原 隆夫, 高野 徹 宮沢 誠一, 田島 良一 齊藤 裕人, 鳥山 正晴 奥野 邦利, 広沢 文則 上倉 泉, 松島 哲也 横川 眞顯	『個人別領域別談話収録による映画史大系』	19	平成20年 3月	芸術学部映画学科																												

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は, 理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
「藤井浩明」聞き書きは、戦後日本映画研究の一環としての「大映株式会社と戦後日本映画の歴史」といったテーマ研究の基礎となる聞き書きであり「川崎三郎」聞き書きは、その技術史版ともいえる基礎的聞き書きである。			
(その他)			

【別紙様式 9】

* 課題番号

共07-003

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 3月 9日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 くらかけ じゅんいち
鞍掛 純一



所属・資格 芸術学部・美術学科・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / <u>一般研究(共同研究)</u> / 総合研究			注: 該当する種目を○で囲んでください。																																													
2 研究課題	里山の美術教室：廃校・廃屋を拠点とした美術による地域活性化と美術教育の再生の試み																																																
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 鞍掛 純一 ・研究分担者（役割分担） 高橋 幸次 （調査・資料収集・記録） 大槻 孝之 （制作・現地指導） 奥野 邦利 （調査・資料収集・映像記録） 																																																
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																														
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名／論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																													

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
鞍掛 純一, 高橋 幸次 大槻 孝之, 奥野 邦利 日大芸術彫刻有志	十日町タイムス	平成20年2月19日	
鞍掛 純一, 高橋 幸次 大槻 孝之, 奥野 邦利 日大芸術彫刻有志	市報とおかまち	平成20年2月25日	
鞍掛 純一, 高橋 幸次 大槻 孝之, 奥野 邦利 日大芸術彫刻有志	十日町新聞(第6747号、6749号)	平成20年2月15日、25日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
鞍掛 純一, 高橋 幸次 大槻 孝之, 奥野 邦利	写真	ワークショップ写真 「一光年のサンドスケープ」 「下駄を彫ろう」 「大変身! 作って描こう」 「とうふや甚句」	4枚
鞍掛 純一, 高橋 幸次 大槻 孝之, 奥野 邦利	リーフレット	イベント内容 越後妻有 大地の祭り夏 2007 越後妻有 雪アートプロジェクト	2枚
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	共07-005
--------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 1 日

日本大学 総長 殿

氏名 北川 道男



所属・資格 国際関係学部

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。		
2 研究課題	無形資産の総合的研究			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 北川道男 ・研究分担者 (役割分担) 豊川和治 (情報機器保守サービスデータのデータマイニングによる分析) 雨宮史卓 (企業がブランドを資産として捉えることの意義とブランド資産戦略) 笈 正治 (中国企業とタイ国企業管理者のモチベーション比較) 北川道男 (無形資産の拡大と会計・監査の諸問題)			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
豊川和治	「無形資産の総合的研究」 国際関係研究	第29巻3号	平成20年12月	日本大学国際関係学部
雨宮史卓	「無形資産の総合的研究」 国際関係研究	第29巻3号	平成20年12月	日本大学国際関係学部
笈 正治	「無形資産の総合的研究」 国際関係研究	第29巻3号	平成20年12月	日本大学国際関係学部
北川道男	「無形資産の総合的研究」 国際関係研究	第29巻3号	平成20年12月	日本大学国際関係学部

※ホームページ等での公開の（可・否） いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

[成果物9-2]

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名（朝刊・夕刊）	掲載年月日	
			
その他（ビデオ、CD、シナリオ、写真、舞台等）			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果（下記のような成果があれば記入してください。）			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			

* 課題番号	共 07-006
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 18 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 大月 穰



所属・資格 理工学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / <u>一般研究(共同研究)</u> / 総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	自己組織化分子配列を鋳型とするナノスケール材料の合成と機能																																									
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 大月 穰, 理工学部准教授, 研究総括, 分子配列作製と鋳型合成 研究分担者 (役割分担) 萩原俊紀, 理工学部准教授, 鋳型となる分子の合成 塚本 新, 理工学部専任講師, 鋳型合成と物性評価 																																									
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大月穰</td> <td>第4回機能性分子シンポジウム</td> <td>二次元超分子化学—基板表面での分子の自己集合構造と動き</td> <td>2008年12月20日</td> </tr> <tr> <td>大月穰</td> <td>第58回錯体化学討論会</td> <td>レドックス応答性超分子金属錯体のエネルギー移動と電子移動</td> <td>2008年9月20日</td> </tr> <tr> <td>J. Otsuki</td> <td>5th International Conference on Porphyrins and Phthalocyanines</td> <td>Self-Assembly of Porphyrins and Energy Transfer Therein</td> <td>2008年7月7日</td> </tr> <tr> <td>J. Otsuki</td> <td>5th International Workshop on Supramolecular Nanoscience of Chemically Programmed Pigments</td> <td>Porphyrin Assemblies in Solution and on Surface</td> <td>2008年6月9日</td> </tr> <tr> <td>A. Itoh, F. Chino, S. Iwase, Y. Sano, K. Okayama, A. Tsukamoto</td> <td>INTERMAG2008 Conference</td> <td>Domain structure in TbFeCo/FePt-grains composite film and Cu doping effect on Curie temperature of FePt grains</td> <td>2008年5月5日</td> </tr> <tr> <td>中本峻司, 塚本新, 伊藤彰義</td> <td>平成20年度(第52回)日本大学理工学部学術講演</td> <td>自己組織化多孔質 SiO₂ 基板上的 FeCuPt 微粒子の配列と結晶構造</td> <td>2008年11月29日</td> </tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	大月穰	第4回機能性分子シンポジウム	二次元超分子化学—基板表面での分子の自己集合構造と動き	2008年12月20日	大月穰	第58回錯体化学討論会	レドックス応答性超分子金属錯体のエネルギー移動と電子移動	2008年9月20日	J. Otsuki	5th International Conference on Porphyrins and Phthalocyanines	Self-Assembly of Porphyrins and Energy Transfer Therein	2008年7月7日	J. Otsuki	5th International Workshop on Supramolecular Nanoscience of Chemically Programmed Pigments	Porphyrin Assemblies in Solution and on Surface	2008年6月9日	A. Itoh, F. Chino, S. Iwase, Y. Sano, K. Okayama, A. Tsukamoto	INTERMAG2008 Conference	Domain structure in TbFeCo/FePt-grains composite film and Cu doping effect on Curie temperature of FePt grains	2008年5月5日	中本峻司, 塚本新, 伊藤彰義	平成20年度(第52回)日本大学理工学部学術講演	自己組織化多孔質 SiO ₂ 基板上的 FeCuPt 微粒子の配列と結晶構造	2008年11月29日												
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																							
大月穰	第4回機能性分子シンポジウム	二次元超分子化学—基板表面での分子の自己集合構造と動き	2008年12月20日																																							
大月穰	第58回錯体化学討論会	レドックス応答性超分子金属錯体のエネルギー移動と電子移動	2008年9月20日																																							
J. Otsuki	5th International Conference on Porphyrins and Phthalocyanines	Self-Assembly of Porphyrins and Energy Transfer Therein	2008年7月7日																																							
J. Otsuki	5th International Workshop on Supramolecular Nanoscience of Chemically Programmed Pigments	Porphyrin Assemblies in Solution and on Surface	2008年6月9日																																							
A. Itoh, F. Chino, S. Iwase, Y. Sano, K. Okayama, A. Tsukamoto	INTERMAG2008 Conference	Domain structure in TbFeCo/FePt-grains composite film and Cu doping effect on Curie temperature of FePt grains	2008年5月5日																																							
中本峻司, 塚本新, 伊藤彰義	平成20年度(第52回)日本大学理工学部学術講演	自己組織化多孔質 SiO ₂ 基板上的 FeCuPt 微粒子の配列と結晶構造	2008年11月29日																																							
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>J. Otsuki, K. Namiki, Y. Arai, M. Amano, H. Sawai, A. Tsukamoto, T. Hagiwara</td> <td>Chem. Lett. · "Face-on and Columnar Porphyrin Assemblies at Solid/Liquid Interface on HOPG"</td> <td>38·6</td> <td>2009.6</td> <td>Chem. Soc. Jpn.</td> </tr> <tr> <td>F. Camerel, J. Barberá, J. Otsuki, T. Tokimoto, Y. Shimazaki, L.-Y. Chen, S.-H. Liu, M.-S. Lin, C.-C. Wu, R. Ziessel</td> <td>Adv. Mater. · "Solution Processable Liquid Crystals of Luminescent Al(8-hydroxyquinoline-5-sulfonato) Complexes"</td> <td>20·18</td> <td>2008</td> <td>Wiley-VCH</td> </tr> <tr> <td>J. Otsuki, Y. Arai, M. Amano, H. Sawai, M. Ohkita, T. Hayashi, M. Hara</td> <td>Langmuir · "Superperiodic Assembly of 2,6-Diethynylpyridine through Weak Hydrogen Bonds at the 1-Phenyldecane/HOPG Interface"</td> <td>24·11</td> <td>2008</td> <td>Am. Chem. Soc.</td> </tr> <tr> <td>J. Otsuki, Y. Kanazawa, A. Kaito, D.-M. Shafiqul islam, Y. Araki, O. Ito</td> <td>Chem. Eur. J. · "Through-Bond Excited Energy Transfer Mediated by an Amidinium-Carboxylate Salt Bridge in Zn-Porphyrin Free-Base Porphyrin Dyads"</td> <td>14·12</td> <td>2008</td> <td>Wiley-VCH</td> </tr> <tr> <td>山崎学, 鈴木智裕, 萩原俊紀, 澤口孝志, 矢野彰一郎</td> <td>高分子論文集 · "1,3-双極子環化付加反応を利用した新規ポリ[2]カテナンの合成"</td> <td>65·7</td> <td>2008</td> <td>高分子学会</td> </tr> <tr> <td>T. Hagiwara, M. Yamazaki, T. Sawaguchi, S. Yano</td> <td>Trans. Mater. Res. Soc. Jpn. · "Preparation of Novel Poly[2]catenanes by Direct Bonding of [2]Catenanes"</td> <td>33·4</td> <td>2008</td> <td>Mater. Res. Soc. Jpn.</td> </tr> <tr> <td>S. Nakamoto, A. Tsukamoto, A. Itoh</td> <td>Special Issue of Nihon University CST 2008 Annual Conference -Report of RISTNU · "Alignment and Crystal Structure of FeCuPt Grains on SiO₂ Substrates with Self-Organized Nano-Pores"</td> <td>54·3</td> <td>2009·3</td> <td>Nihon Univ. CST</td> </tr> </tbody> </table>		著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	J. Otsuki, K. Namiki, Y. Arai, M. Amano, H. Sawai, A. Tsukamoto, T. Hagiwara	Chem. Lett. · "Face-on and Columnar Porphyrin Assemblies at Solid/Liquid Interface on HOPG"	38·6	2009.6	Chem. Soc. Jpn.	F. Camerel, J. Barberá, J. Otsuki, T. Tokimoto, Y. Shimazaki, L.-Y. Chen, S.-H. Liu, M.-S. Lin, C.-C. Wu, R. Ziessel	Adv. Mater. · "Solution Processable Liquid Crystals of Luminescent Al(8-hydroxyquinoline-5-sulfonato) Complexes"	20·18	2008	Wiley-VCH	J. Otsuki, Y. Arai, M. Amano, H. Sawai, M. Ohkita, T. Hayashi, M. Hara	Langmuir · "Superperiodic Assembly of 2,6-Diethynylpyridine through Weak Hydrogen Bonds at the 1-Phenyldecane/HOPG Interface"	24·11	2008	Am. Chem. Soc.	J. Otsuki, Y. Kanazawa, A. Kaito, D.-M. Shafiqul islam, Y. Araki, O. Ito	Chem. Eur. J. · "Through-Bond Excited Energy Transfer Mediated by an Amidinium-Carboxylate Salt Bridge in Zn-Porphyrin Free-Base Porphyrin Dyads"	14·12	2008	Wiley-VCH	山崎学, 鈴木智裕, 萩原俊紀, 澤口孝志, 矢野彰一郎	高分子論文集 · "1,3-双極子環化付加反応を利用した新規ポリ[2]カテナンの合成"	65·7	2008	高分子学会	T. Hagiwara, M. Yamazaki, T. Sawaguchi, S. Yano	Trans. Mater. Res. Soc. Jpn. · "Preparation of Novel Poly[2]catenanes by Direct Bonding of [2]Catenanes"	33·4	2008	Mater. Res. Soc. Jpn.	S. Nakamoto, A. Tsukamoto, A. Itoh	Special Issue of Nihon University CST 2008 Annual Conference -Report of RISTNU · "Alignment and Crystal Structure of FeCuPt Grains on SiO ₂ Substrates with Self-Organized Nano-Pores"	54·3	2009·3	Nihon Univ. CST
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																						
J. Otsuki, K. Namiki, Y. Arai, M. Amano, H. Sawai, A. Tsukamoto, T. Hagiwara	Chem. Lett. · "Face-on and Columnar Porphyrin Assemblies at Solid/Liquid Interface on HOPG"	38·6	2009.6	Chem. Soc. Jpn.																																						
F. Camerel, J. Barberá, J. Otsuki, T. Tokimoto, Y. Shimazaki, L.-Y. Chen, S.-H. Liu, M.-S. Lin, C.-C. Wu, R. Ziessel	Adv. Mater. · "Solution Processable Liquid Crystals of Luminescent Al(8-hydroxyquinoline-5-sulfonato) Complexes"	20·18	2008	Wiley-VCH																																						
J. Otsuki, Y. Arai, M. Amano, H. Sawai, M. Ohkita, T. Hayashi, M. Hara	Langmuir · "Superperiodic Assembly of 2,6-Diethynylpyridine through Weak Hydrogen Bonds at the 1-Phenyldecane/HOPG Interface"	24·11	2008	Am. Chem. Soc.																																						
J. Otsuki, Y. Kanazawa, A. Kaito, D.-M. Shafiqul islam, Y. Araki, O. Ito	Chem. Eur. J. · "Through-Bond Excited Energy Transfer Mediated by an Amidinium-Carboxylate Salt Bridge in Zn-Porphyrin Free-Base Porphyrin Dyads"	14·12	2008	Wiley-VCH																																						
山崎学, 鈴木智裕, 萩原俊紀, 澤口孝志, 矢野彰一郎	高分子論文集 · "1,3-双極子環化付加反応を利用した新規ポリ[2]カテナンの合成"	65·7	2008	高分子学会																																						
T. Hagiwara, M. Yamazaki, T. Sawaguchi, S. Yano	Trans. Mater. Res. Soc. Jpn. · "Preparation of Novel Poly[2]catenanes by Direct Bonding of [2]Catenanes"	33·4	2008	Mater. Res. Soc. Jpn.																																						
S. Nakamoto, A. Tsukamoto, A. Itoh	Special Issue of Nihon University CST 2008 Annual Conference -Report of RISTNU · "Alignment and Crystal Structure of FeCuPt Grains on SiO ₂ Substrates with Self-Organized Nano-Pores"	54·3	2009·3	Nihon Univ. CST																																						

※ホームページ等での公開の(◎・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p>			
<p>(外部資金の獲得)</p> <p>基板表面での分子配列制御の知見を展開した研究「分子マシンをめざしたダブルデッカー錯体の回転の可視化と制御」が、平成 21 年度から平成 23 年度の科学研究費基盤研究 (C) (総額 3,600 千円) として採択された (大月)。</p>			
<p>(他の研究への発展)</p> <p>自己組織化した高分子の配列を鋳型とするナノスケール材料の合成、特に高密度記録材料への応用は、平成 21 年度からの日本大学 N.研究プロジェクトの中心的な研究課題の 1 つになった (大月, 塚本)。</p> <p>N.研究プロジェクトの中で、自己組織化とその応用に関する研究はさらに幅を広げ、文理学部・松下祥子、理工学部・伊掛浩輝、理工学部・伊藤彰義などのメンバーの共同研究に発展している。さらに、量子科学研究所・羽柴秀臣による自己組織化と対極にあるトップダウン型ナノ加工との組み合わせという全く新しい共同研究へ発展しつつある。早いうちに成果を発表できると考えている。</p>			
<p>(その他)</p>			

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 4月 13日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 清 水 正 一



所属・資格 生産工学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究/一般研究(個人)/ <u>一般研究(共同)</u> /総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																								
2 研究課題	液-液二相系反応のための高次機能超分子触媒の開発とヒドロホルミル化反応への応用																											
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 清水 正一（高次機能超分子触媒の合成とヒドロホルミル化反応） 研究分担者（役割分担） 南澤 宏明（金属錯体の分析） 西澤 一友（分子力学計算による超分子触媒の評価およびその数量化） 																											
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>清水・白川</td> <td>日本大学生産工学部第 41 回学術講演会</td> <td>水を触媒固定相とする二相系反応のための超分子触媒の開発 (OS-3)</td> <td>平成 20 年 12 月</td> </tr> <tr> <td>南澤</td> <td>日本大学生産工学部第 41 回学術講演会</td> <td>環境調和型材料による有害物質除去およびそれらの高感度モニタリング法の開発に関する研究 (OS-9)</td> <td>平成 20 年 12 月</td> </tr> <tr> <td>高橋・白川・清水</td> <td>日本油化学会第 47 回年会</td> <td>Xantphos 部位を架橋とする新規カリックスホスフィン配位子の合成 (P-094)</td> <td>平成 20 年 9 月</td> </tr> <tr> <td>高橋・清水・白川</td> <td>日本化学会第 88 春季年会</td> <td>Xantphos 部位を架橋とする水溶性カリックスホスフィン配位子の効率的な合成経路の探索 (3PB-050)</td> <td>平成 20 年 3 月</td> </tr> <tr> <td>高橋・清水・白川</td> <td>日本大学生産工学部第 40 回学術講演会</td> <td>Xantphos 部位を有する水溶性カリックスホスフィン配位子の新規合成経路の探索 (5-36)</td> <td>平成 19 年 12 月</td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	清水・白川	日本大学生産工学部第 41 回学術講演会	水を触媒固定相とする二相系反応のための超分子触媒の開発 (OS-3)	平成 20 年 12 月	南澤	日本大学生産工学部第 41 回学術講演会	環境調和型材料による有害物質除去およびそれらの高感度モニタリング法の開発に関する研究 (OS-9)	平成 20 年 12 月	高橋・白川・清水	日本油化学会第 47 回年会	Xantphos 部位を架橋とする新規カリックスホスフィン配位子の合成 (P-094)	平成 20 年 9 月	高橋・清水・白川	日本化学会第 88 春季年会	Xantphos 部位を架橋とする水溶性カリックスホスフィン配位子の効率的な合成経路の探索 (3PB-050)	平成 20 年 3 月	高橋・清水・白川	日本大学生産工学部第 40 回学術講演会	Xantphos 部位を有する水溶性カリックスホスフィン配位子の新規合成経路の探索 (5-36)	平成 19 年 12 月
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																									
清水・白川	日本大学生産工学部第 41 回学術講演会	水を触媒固定相とする二相系反応のための超分子触媒の開発 (OS-3)	平成 20 年 12 月																									
南澤	日本大学生産工学部第 41 回学術講演会	環境調和型材料による有害物質除去およびそれらの高感度モニタリング法の開発に関する研究 (OS-9)	平成 20 年 12 月																									
高橋・白川・清水	日本油化学会第 47 回年会	Xantphos 部位を架橋とする新規カリックスホスフィン配位子の合成 (P-094)	平成 20 年 9 月																									
高橋・清水・白川	日本化学会第 88 春季年会	Xantphos 部位を架橋とする水溶性カリックスホスフィン配位子の効率的な合成経路の探索 (3PB-050)	平成 20 年 3 月																									
高橋・清水・白川	日本大学生産工学部第 40 回学術講演会	Xantphos 部位を有する水溶性カリックスホスフィン配位子の新規合成経路の探索 (5-36)	平成 19 年 12 月																									
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M.Minamisawa, H.Minamisawa, S.Yoshida, N.Takai</td> <td>Synergic Solutions for Sustainable Development/Adsorption of Heavy Metals in Aqueous Solution on Adsorption Gel Prepared from Pant Biomaterial</td> <td>—</td> <td>平成 19 年</td> <td>Research Publishing</td> </tr> <tr> <td>S.Shirakawa, T.Kimura, S.Murata, S.Shimizu</td> <td>The Journal of Organic Chemistry/Synthesis and Resolution of a Multifunctional Inherently Chiral Calix[4]arene with an ABCD Substitution Pattern at the Wide Rim:The Effect of a Multifunctional Structure in the Organocatalyst on Enantioselectivity in Asymmetric Reactions</td> <td>74・3</td> <td>平成 21 年 1 月</td> <td>American Chemical Society</td> </tr> <tr> <td>清水正一, 小林 修, 白川誠司, 南澤宏明, 西澤一友</td> <td>日本大学生産工学部研究報告 A/キサンテン骨格を有する新規ジホスフィン配位子の合成と液-液二相系ヒドロホルミル化反応への応用</td> <td>第 42 巻 第 1 号</td> <td>平成 21 年 6 月</td> <td>日本大学生産工学部生産工学研究所</td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	M.Minamisawa, H.Minamisawa, S.Yoshida, N.Takai	Synergic Solutions for Sustainable Development/Adsorption of Heavy Metals in Aqueous Solution on Adsorption Gel Prepared from Pant Biomaterial	—	平成 19 年	Research Publishing	S.Shirakawa, T.Kimura, S.Murata, S.Shimizu	The Journal of Organic Chemistry/Synthesis and Resolution of a Multifunctional Inherently Chiral Calix[4]arene with an ABCD Substitution Pattern at the Wide Rim:The Effect of a Multifunctional Structure in the Organocatalyst on Enantioselectivity in Asymmetric Reactions	74・3	平成 21 年 1 月	American Chemical Society	清水正一, 小林 修, 白川誠司, 南澤宏明, 西澤一友	日本大学生産工学部研究報告 A/キサンテン骨格を有する新規ジホスフィン配位子の合成と液-液二相系ヒドロホルミル化反応への応用	第 42 巻 第 1 号	平成 21 年 6 月	日本大学生産工学部生産工学研究所				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																								
M.Minamisawa, H.Minamisawa, S.Yoshida, N.Takai	Synergic Solutions for Sustainable Development/Adsorption of Heavy Metals in Aqueous Solution on Adsorption Gel Prepared from Pant Biomaterial	—	平成 19 年	Research Publishing																								
S.Shirakawa, T.Kimura, S.Murata, S.Shimizu	The Journal of Organic Chemistry/Synthesis and Resolution of a Multifunctional Inherently Chiral Calix[4]arene with an ABCD Substitution Pattern at the Wide Rim:The Effect of a Multifunctional Structure in the Organocatalyst on Enantioselectivity in Asymmetric Reactions	74・3	平成 21 年 1 月	American Chemical Society																								
清水正一, 小林 修, 白川誠司, 南澤宏明, 西澤一友	日本大学生産工学部研究報告 A/キサンテン骨格を有する新規ジホスフィン配位子の合成と液-液二相系ヒドロホルミル化反応への応用	第 42 巻 第 1 号	平成 21 年 6 月	日本大学生産工学部生産工学研究所																								

※ホームページ等での公開の (○) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。


6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
<p>本研究で得られたカリックスアレーンホスフィン配位子に関する知見は、他の研究テーマにも活用され、研究の進展に大きな貢献をした。例えば、その関連成果は国際的に評価の高いアメリカ化学会発行の専門誌 (The Journal of Organic Chemistry, 平成 21 年 1 月発行) に発表し、さらには「日本大学生産工学部研究報告 A」(平成 21 年 6 月発行予定) にも掲載が予定されている。</p>			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 5月 12日

日本大学 総長 殿

氏 名 若林 裕之 
 所属・資格 工学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	河川湖沼等水域の水質保全のための広域モニタリングシステム開発に関する研究																																			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 若林 裕之 ・研究分担者 (役割分担) 中村 玄正 (現地取得データの解析) 藤田 豊 (現地取得データの解析) 岩井 俊哉 (リモートセンシングデータ解析、土地被覆分類手法の研究)																																			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大和泰佑, 佐藤洋一, 藤田 豊, 中村玄正</td> <td>土木学会 東北支部</td> <td>猪苗代湖北部水域における流入負荷と水生植物、pHについて</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td>中村玄正, 藤田 豊, 大和泰佑, 佐藤洋一</td> <td>土木学会 東北支部</td> <td>猪苗代湖の水質に関する現況と課題</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td>大野 太志 朗, 藤田 豊, 田中 仁, 中村 玄正</td> <td>土木学会 東北支部</td> <td>猪苗代湖の水温変化と流動</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td>阿久津真志, 藤田 豊, 佐々木幹夫, 中村玄正</td> <td>土木学会 東北支部</td> <td>猪苗代湖の長瀬川河口水域における水質観測</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td>石上慎哉, 新保貴康, 藤田 豊</td> <td>土木学会 東北支部</td> <td>猪苗代湖全水域における水質同日観測</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td>青柳一輝, 田中 仁, 藤田 豊, 梅田 信</td> <td>土木学会 東北支部</td> <td>現地観測による猪苗代湖の水理現象に関する研究</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td>以下 別紙</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	大和泰佑, 佐藤洋一, 藤田 豊, 中村玄正	土木学会 東北支部	猪苗代湖北部水域における流入負荷と水生植物、pHについて	2008年3月	中村玄正, 藤田 豊, 大和泰佑, 佐藤洋一	土木学会 東北支部	猪苗代湖の水質に関する現況と課題	2008年3月	大野 太志 朗, 藤田 豊, 田中 仁, 中村 玄正	土木学会 東北支部	猪苗代湖の水温変化と流動	2008年3月	阿久津真志, 藤田 豊, 佐々木幹夫, 中村玄正	土木学会 東北支部	猪苗代湖の長瀬川河口水域における水質観測	2008年3月	石上慎哉, 新保貴康, 藤田 豊	土木学会 東北支部	猪苗代湖全水域における水質同日観測	2008年3月	青柳一輝, 田中 仁, 藤田 豊, 梅田 信	土木学会 東北支部	現地観測による猪苗代湖の水理現象に関する研究	2008年3月	以下 別紙			
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																	
大和泰佑, 佐藤洋一, 藤田 豊, 中村玄正	土木学会 東北支部	猪苗代湖北部水域における流入負荷と水生植物、pHについて	2008年3月																																	
中村玄正, 藤田 豊, 大和泰佑, 佐藤洋一	土木学会 東北支部	猪苗代湖の水質に関する現況と課題	2008年3月																																	
大野 太志 朗, 藤田 豊, 田中 仁, 中村 玄正	土木学会 東北支部	猪苗代湖の水温変化と流動	2008年3月																																	
阿久津真志, 藤田 豊, 佐々木幹夫, 中村玄正	土木学会 東北支部	猪苗代湖の長瀬川河口水域における水質観測	2008年3月																																	
石上慎哉, 新保貴康, 藤田 豊	土木学会 東北支部	猪苗代湖全水域における水質同日観測	2008年3月																																	
青柳一輝, 田中 仁, 藤田 豊, 梅田 信	土木学会 東北支部	現地観測による猪苗代湖の水理現象に関する研究	2008年3月																																	
以下 別紙																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中村玄正</td> <td>用水と廃水/猪苗代湖の水質保全の課題と対策</td> <td>Vol. 50 No. 12</td> <td>2008年</td> <td>用水と廃水</td> </tr> <tr> <td>中村玄正, 藤田 豊, 若林裕之, 稲森悠平</td> <td>有機物循環システムの構築に関する調査研究報告書/猪苗代湖の水質保全のための有機物循環システムに関する調査研究</td> <td></td> <td>2008年3月</td> <td>特定非営利活動法人 超学際的研究機構</td> </tr> <tr> <td>青柳一輝, 田中 仁, 藤田 豊, 梅田 誠</td> <td>東北地域災害科学研究/猪苗代湖の水理特性に関する研究</td> <td>Vol. 44</td> <td>2008年3月</td> <td>文部科学省研究開発局</td> </tr> <tr> <td>以下 別紙</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	中村玄正	用水と廃水/猪苗代湖の水質保全の課題と対策	Vol. 50 No. 12	2008年	用水と廃水	中村玄正, 藤田 豊, 若林裕之, 稲森悠平	有機物循環システムの構築に関する調査研究報告書/猪苗代湖の水質保全のための有機物循環システムに関する調査研究		2008年3月	特定非営利活動法人 超学際的研究機構	青柳一輝, 田中 仁, 藤田 豊, 梅田 誠	東北地域災害科学研究/猪苗代湖の水理特性に関する研究	Vol. 44	2008年3月	文部科学省研究開発局	以下 別紙											
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																
中村玄正	用水と廃水/猪苗代湖の水質保全の課題と対策	Vol. 50 No. 12	2008年	用水と廃水																																
中村玄正, 藤田 豊, 若林裕之, 稲森悠平	有機物循環システムの構築に関する調査研究報告書/猪苗代湖の水質保全のための有機物循環システムに関する調査研究		2008年3月	特定非営利活動法人 超学際的研究機構																																
青柳一輝, 田中 仁, 藤田 豊, 梅田 誠	東北地域災害科学研究/猪苗代湖の水理特性に関する研究	Vol. 44	2008年3月	文部科学省研究開発局																																
以下 別紙																																				

※ホームページ等での公開の (・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
中村玄正, 藤田豊, 若林裕之, 高橋迪夫, 田野久貴, 長林久夫, 平山和雄, 佐藤洋一	猪苗代湖の水質に及ぼす北部水域における水生植物の影響－水生植物による有機物生産とpH上昇－清らかな湖、美しい猪苗代湖の秘密を探る水環境研究誌	平成20年6月	
中村玄正, 藤田豊, 若林裕之, 高橋迪夫, 田野久貴, 長林久夫, 平山和雄, 佐藤洋一	猪苗代湖の水質保全の課題と対策について (基調講演)、みんなで守る美しい猪苗代湖の水環境フォーラム	平成21年1月	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

別紙

4. 学会発表等 (続き)			
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
蟹沢直樹, 岩井俊哉	電気関係学会東北支部連合大会	ノイズを付加したカオスニューラルネットワークにおける記憶の想起とアトラクタ構造に関する考察	2008年8月
佐藤大輔, 岩井俊哉	電気関係学会東北支部連合大会	カオスニューラルネットワークにおける記憶パターンの遷移とアトラクタ構造に関する考察	2008年8月
若林裕之, 藤田 豊, 中村和樹	日本リモートセンシング学会学術講演会	ASTER データによる猪苗代湖水モニタリング	2008年12月
田村 徹, 藤田 豊, 佐々木幹夫, 田中 仁	土木学会 東北支部	長瀬川河口水域における拡散現象	2009年3月
富樫 潤, 藤田 豊, 中村玄正, 佐藤洋一	土木学会 東北支部	猪苗代湖における大腸菌群調査	2009年3月
武田慎太郎, 藤田 豊, 中村玄正, 佐藤洋一	土木学会 東北支部	猪苗代湖の全水域における水温変動過程と水質特性	2009年3月
工藤宗大, 藤田 豊, 若林裕之, 田中 仁	土木学会 東北支部	衛星画像と空中写真を用いた猪苗代湖の湖浜変形	2009年3月
青柳一輝, 田中 仁, 藤田 豊, 梅田 誠	土木学会 東北支部	猪苗代湖の秋冬季における湖水流動特性	2009年3月
大和泰佑, 長林久夫, 藤田豊, 佐藤洋一, 中村玄正	土木学会 東北支部	猪苗代湖北部水域への流入負荷と水質特性	2009年3月

5 著書・雑誌論文 (続き)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
佐藤大輔, 岩井俊哉	電子通信情報学会技術報告/カオスニューラルネットワークダイナミクスへの記憶パターン間相関の影響	NLP2008-149	2009年2月	電子通信情報学会
蟹沢直樹, 岩井俊哉	電子通信情報学会技術報告/カオスニューラルネットワークにおける確率共鳴的な現象	NLP2008-149	2009年2月	電子通信情報学会
中村玄正, 藤田豊, 若林裕之, 黒澤高秀	猪苗代湖の水質保全のための北部水域諸特性に関する調査研究報告書		2009年3月	特定非営利活動法人 超学際的研究機構

* 課題番号	共 07-009
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年4月15日

日本大学 総長 殿

氏 名 佐藤 晴夫



所属・資格 教授

下記のとおり提出いたします。

1	種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 自然エネルギーを活用した分散型小規模電力網に関する研究		
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）		
	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 佐藤 晴夫 ・研究分担者（役割分担） 平山 和雄（水素製造における化学的特性の分析） 上田 剛（燃料電池の最適制御） 渡部 弘一（小水力発電の活用技術） 		
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）		
	発表者名	学会名	発表テーマ
	野崎隆, 平山和雄, 佐藤晴夫, 渡部弘一, 上田剛, 増尾一, 川島明人, 宍戸亜衣	太陽/風力エネルギー講演論文集(2008), No.109	マイクロ波照射による低電力型メタン→水素改質器の開発(2)
			発表年月
			2008年11月
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）		
	著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号
			年月
			出版社・発行所

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
1. 文部科学省学術フロンティア推進事業補助金 (佐藤, 渡部, 上田, 平山)			
2. プラス電子(株)からの受託研究費 (佐藤)			
(他の研究への発展)			
「ロハスの家」関連研究との連携 (佐藤, 渡部)			
(その他)			
1. ふくしま環境・エネルギーフェア 2008 における燃料電池発電システムの出展, 2008年12月			
2. 第5回国際水素・燃料電池展における自然・循環型クリーンエネルギー発電システムの出展, 2009年2月			


* 課題番号	共 07-010
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 28 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 笠巻 祐二 
 所属・資格 医学部・講師（専任扱）

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 中国西域少数民族の自然長寿を規定する心臓生理学的要因－日本人長寿者との比較－				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 笠巻 祐二（研究計画立案、遂行、総括心電図、心エコーの実施、データ解析、統計処理、論文作成） ・研究分担者（役割分担） 中井 俊子（24時間ホルター心電図の実施、データ解析） 泉 洋一（血液生化学検査およびホルモン検査データ解析、携帯型連続血圧測定装置の実施、解析）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	Masakatsu Ohta, Yuji Kasamaki, Toshiko Nakai, et al.	The 72 nd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	The Natural Longevity of the Uygur People in the Western Region of China Has Less Chance to Have Atrial Fibrillation?	2008, March	
	Maimaiti Aniwaer, Yoichi Izumi, Yuji Kasamaki, et al.	The 72 nd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society	The interaction between atrial natriuretic peptide and heart rate variability in human subjects	2008, March	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			
<p>第72回日本循環器学会学術集会において中国西域少数民族には心房細動の有病率が極めて少ないことを報告した。すなわち、中国新疆ウイグル自治区ホータン居住の90歳以上のウイグル族自然長寿者(UL群)では、心房細動の有病率が極めて少なく、その理由として我々が心エコーのデータから明らかにしたUL群では、左室収縮機能正常かつ軽度の拡張機能低下に留まっていることが少なからず関わっている可能性について報告した。血中テストステロン濃度が比較的保たれていることも重要な所見である可能性があるが、現時点では心房細動の有病率の低さと関連しているか否かは不明であり、今後の検討を待たなければならないと考えている。</p>			

* 課題番号	共 07-011
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 9 月 11 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 上野高浩 

所属・資格 医学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	メタボリックシンドロームでの内臓脂肪組織ケモカインレセプター(CCR1)の役割																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 上野高浩 ・研究分担者 (役割分担) 松本太郎 (細胞実験) 本江純子 (結果解析) 斎藤穎 (組織実験)																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上野高浩, 松本太郎, 本江純子, 斎藤穎 他 7 名</td> <td>第 45 回高血圧関連疾患モデル学会</td> <td>C-C motif chemokine receptor 1 による前駆脂肪細胞の遊走促進作用</td> <td>2009.9</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	上野高浩, 松本太郎, 本江純子, 斎藤穎 他 7 名	第 45 回高血圧関連疾患モデル学会	C-C motif chemokine receptor 1 による前駆脂肪細胞の遊走促進作用	2009.9																						
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
上野高浩, 松本太郎, 本江純子, 斎藤穎 他 7 名	第 45 回高血圧関連疾患モデル学会	C-C motif chemokine receptor 1 による前駆脂肪細胞の遊走促進作用	2009.9																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																									
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														

※ホームページ等での公開の 是 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得) なし</p> <p>(外部資金の獲得) なし</p> <p>(他の研究への発展) なし</p> <p>(その他)</p>			

* 課題番号	共 07-012
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 7 月 15 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 山 上 裕 晃



所属・資格 医学部・助手

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	日本における E 型肝炎の分子疫学および臨床病理学的研究																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 山上 裕晃 (研究の総括, 検体の収集, HEV sequence の決定, PCR 法) 研究分担者 (役割分担) 森山 光彦 (HEV 抗体の測定, 検体の収集, 分子系統樹の作製, pathogenesis の検討) 黒田 和道 (PCR 法, sequence の決定, HEV 培養) 																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山上 裕晃、田村 彰教、 森山 光彦、黒田 和道</td> <td>第 491 回日大医学会例会</td> <td>当院における E 型肝炎の臨床病理学的検討</td> <td>2009 年 7 月</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	山上 裕晃、田村 彰教、 森山 光彦、黒田 和道	第 491 回日大医学会例会	当院における E 型肝炎の臨床病理学的検討	2009 年 7 月																						
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
山上 裕晃、田村 彰教、 森山 光彦、黒田 和道	第 491 回日大医学会例会	当院における E 型肝炎の臨床病理学的検討	2009 年 7 月																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名／論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Masahiko Sugitani, Akinori Tamura, Mitsuhiko Moriyama, et al.</td> <td>Journal of Gastroenterology and Hepatology / Detection of hepatitis E virus RNA and genotype in Bangladesh</td> <td>24・4</td> <td>2009 年 4 月</td> <td>Blackwell Publishing Asia Pty Ltd</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Masahiko Sugitani, Akinori Tamura, Mitsuhiko Moriyama, et al.	Journal of Gastroenterology and Hepatology / Detection of hepatitis E virus RNA and genotype in Bangladesh	24・4	2009 年 4 月	Blackwell Publishing Asia Pty Ltd																				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
Masahiko Sugitani, Akinori Tamura, Mitsuhiko Moriyama, et al.	Journal of Gastroenterology and Hepatology / Detection of hepatitis E virus RNA and genotype in Bangladesh	24・4	2009 年 4 月	Blackwell Publishing Asia Pty Ltd																														

※ホームページ等での公開の ()・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
なし			
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
なし			
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p> <p>なし</p>			
<p>(外部資金の獲得)</p> <p>なし</p>			
<p>(他の研究への発展)</p> <p>現在 HEV の培養系を確立しようとしている。 日本以外の HEV の塩基配列を決定している。</p>			
<p>(その他)</p> <p>日大の症例と中国長春市の医科大学より提供を受けた PCR 産物よりほぼ全長の sequence が終了している。 今後アメリカ肝臓学会(AASLD)などにて研究成果を発表の予定である。</p>			


* 課題番号	共 07-013
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 10 月 7 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 村 松 高 

所属・資格 医学部・講師（専任扱）

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	肺癌症例における CTC(Circulating Tumor Cells)の関与																																											
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 村松 高 研究分担者（役割分担） 細川 芳文（パラメータの評価の指導） 杉谷 雅彦（症例の病理組織学的分析） 																																											
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>村松 高, 他 8 名</td> <td>第 109 回日本外科学会</td> <td>肺癌患者における循環腫瘍細胞 (Circulating Tumor Cells)の検討</td> <td>2009 年 4 月</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	村松 高, 他 8 名	第 109 回日本外科学会	肺癌患者における循環腫瘍細胞 (Circulating Tumor Cells)の検討	2009 年 4 月																																
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
村松 高, 他 8 名	第 109 回日本外科学会	肺癌患者における循環腫瘍細胞 (Circulating Tumor Cells)の検討	2009 年 4 月																																									
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名／論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>村松 高, 杉谷 雅彦, 細川 芳文, 他 8 名</td> <td>日大医学雑誌／肺癌患者における Cell Search System を用いた循環腫瘍細胞の検討</td> <td>68. 4</td> <td>2009 年 8 月</td> <td>日本大学医学会</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	村松 高, 杉谷 雅彦, 細川 芳文, 他 8 名	日大医学雑誌／肺癌患者における Cell Search System を用いた循環腫瘍細胞の検討	68. 4	2009 年 8 月	日本大学医学会																														
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								
村松 高, 杉谷 雅彦, 細川 芳文, 他 8 名	日大医学雑誌／肺癌患者における Cell Search System を用いた循環腫瘍細胞の検討	68. 4	2009 年 8 月	日本大学医学会																																								

※ホームページ等での公開の 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	共 07-014
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 20 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 _____ 入 部 雄 司



所属・資格 _____ 医学部・助手

下記のとおり提出いたします。

1	種 目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / <u>一般研究(共同研究)</u> / 総合研究	注: 該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 臍帯血造血幹細胞の DNA メチル化に関する研究		
3	研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します) ・研究代表者 入部 雄司 ・研究分担者 (役割分担) 松本 太郎 (造血幹細胞分離についての実験担当) 永瀬 浩喜 (造血幹細胞メチル化についての解析担当) 相澤 信 (造血幹細胞の増殖・分化についての解析担当) 麦島 秀雄 (臍帯血採取・保管・管理担当)		
4	学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)		
	発表者名	学会名	発表テーマ
	入部雄司、松本太郎、永瀬浩喜、相澤信、麦島秀雄	第 31 回 日本造血細胞移植学会総会	臍帯血 CD34 陽性細胞のサイトカインによる DNA メチル化への影響
			発表年月
			平成 21 年 2 月 5 日
5	著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)		
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号
			年月
			出版社・発行所

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 22 日

日本大学 総長 殿

氏 名 宇野 茂之

印

所属・資格 医学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	食生活の欧米化に伴う生活習慣病のリスクファクターの解明とその予防法			
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 宇野 茂之（総括・疾患とターゲット遺伝子の解明） ・研究分担者（役割分担） 槇島 誠（培養系における遺伝子発現調節機構の解明） 櫻井 健一（疾患モデルマウスの検討） 			
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Michitaka Ogura, Kenichi Sakurai, Shigeyuki Uno, Makoto Makishima, et al.	THE JOURNAL OF PHARMACOLOGY AND EXPERIMENTAL THERAPEUTICS/Vitamin D ₃ Modulates the Expression of Bile Acid Regulatory Genes and Represses Inflammation in Bile Duct-Ligated Mice	328・2	2009 February	The American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 5 月 20 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 岩野 秀俊



所属・資格 生物資源科学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究				注：該当する種目を○で囲んでください。																				
2 研究課題	昆虫病理学的アプローチによる節足動物媒介感染症及びその制御に関する研究																								
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・ 研究代表者 岩野 秀俊 昆虫病原微生物の検出・接種および病理診断データの取り纏め ・ 研究分担者 (役割分担) 湯川 眞嘉 (感染系の検討) 村田 浩一 (野生動物試料および病原体媒介節足動物の採取) 佐藤 雪太 (病原体の遺伝子解析) 畠山 吉則 (昆虫病原微生物の検出および遺伝子解析)																								
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>畠山吉則・佐藤雪太・村田浩一・湯川眞嘉・岩野秀俊</td> <td>第52回日本応用動物昆虫学会</td> <td>異なる毒性を示す同種微孢子虫識別DNAマーカーの作成</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>					発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	畠山吉則・佐藤雪太・村田浩一・湯川眞嘉・岩野秀俊	第52回日本応用動物昆虫学会	異なる毒性を示す同種微孢子虫識別DNAマーカーの作成	2008年3月												
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																						
畠山吉則・佐藤雪太・村田浩一・湯川眞嘉・岩野秀俊	第52回日本応用動物昆虫学会	異なる毒性を示す同種微孢子虫識別DNAマーカーの作成	2008年3月																						
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Hatakeyama, Y., Hamano, K. and Iwano, H.</td> <td>J. INSEC. BIOTECH. SERICOL. / An Ultimate Method for Detection of Infected Pathogenic Microorganism from Silkworm using HDGP.</td> <td>77.1</td> <td>2008年2月</td> <td>日本蚕糸学会</td> </tr> <tr> <td>Hatakeyama, Y., Sato, Y., Murata, K., Yukawa, M. and Iwano, H.</td> <td>J. INSEC. BIOTECH. SERICOL. / Search for and detection of specific DNA fragments in high- and low-virulent strains of <i>Nosema bombycis</i> (Microsporida : Nosematidae) .</td> <td>78.1</td> <td>2009年2月</td> <td>日本蚕糸学会</td> </tr> <tr> <td>城谷歩惟、柴田明弘、江尻寛子、佐藤雪太*、畠山吉則、岩野英俊、津田良夫、村田浩一、湯川眞嘉</td> <td>日本獣医師会雑誌/ 神奈川県内の大学農場における蚊の分布および鳥マリア原虫保有状況.</td> <td>62.1</td> <td>2009年1月</td> <td>日本獣医師会</td> </tr> </tbody> </table>					著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Hatakeyama, Y., Hamano, K. and Iwano, H.	J. INSEC. BIOTECH. SERICOL. / An Ultimate Method for Detection of Infected Pathogenic Microorganism from Silkworm using HDGP.	77.1	2008年2月	日本蚕糸学会	Hatakeyama, Y., Sato, Y., Murata, K., Yukawa, M. and Iwano, H.	J. INSEC. BIOTECH. SERICOL. / Search for and detection of specific DNA fragments in high- and low-virulent strains of <i>Nosema bombycis</i> (Microsporida : Nosematidae) .	78.1	2009年2月	日本蚕糸学会	城谷歩惟、柴田明弘、江尻寛子、佐藤雪太*、畠山吉則、岩野英俊、津田良夫、村田浩一、湯川眞嘉	日本獣医師会雑誌/ 神奈川県内の大学農場における蚊の分布および鳥マリア原虫保有状況.	62.1	2009年1月	日本獣医師会
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																					
Hatakeyama, Y., Hamano, K. and Iwano, H.	J. INSEC. BIOTECH. SERICOL. / An Ultimate Method for Detection of Infected Pathogenic Microorganism from Silkworm using HDGP.	77.1	2008年2月	日本蚕糸学会																					
Hatakeyama, Y., Sato, Y., Murata, K., Yukawa, M. and Iwano, H.	J. INSEC. BIOTECH. SERICOL. / Search for and detection of specific DNA fragments in high- and low-virulent strains of <i>Nosema bombycis</i> (Microsporida : Nosematidae) .	78.1	2009年2月	日本蚕糸学会																					
城谷歩惟、柴田明弘、江尻寛子、佐藤雪太*、畠山吉則、岩野英俊、津田良夫、村田浩一、湯川眞嘉	日本獣医師会雑誌/ 神奈川県内の大学農場における蚊の分布および鳥マリア原虫保有状況.	62.1	2009年1月	日本獣医師会																					

※ホームページ等での公開の ()・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			
第44回日本蚕糸学会蚕糸学進歩賞(技術賞)受賞			

【別紙様式 9】

*課題番号	共 07-017
-------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 31 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 _____ 野上 貞雄 _____ 印

所属・資格 _____ 生物資源科学部・教授 _____

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	<p style="text-align: center;">寄生虫由来の新奇生理活性物質の探索</p>																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 野上貞雄 (抗菌活性) ・研究分担者 巨 敏広 (抗凝固活性) 関 泰一郎 (線溶活性) 森友忠昭 (免疫活性) 																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">発表者名</th> <th style="width: 25%;">学会名</th> <th style="width: 40%;">発表テーマ</th> <th style="width: 10%;">発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土井純子、巨 敏広、関 泰一郎、森友忠昭、野上貞雄</td> <td>第 144 回日本獣医学会</td> <td>犬糸状虫の抗凝固活性に関する研究</td> <td>2007 年 9 月</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	土井純子、巨 敏広、関 泰一郎、森友忠昭、野上貞雄	第 144 回日本獣医学会	犬糸状虫の抗凝固活性に関する研究	2007 年 9 月																																
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
土井純子、巨 敏広、関 泰一郎、森友忠昭、野上貞雄	第 144 回日本獣医学会	犬糸状虫の抗凝固活性に関する研究	2007 年 9 月																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">著者・執筆者</th> <th style="width: 30%;">著書名・雑誌名/論文名</th> <th style="width: 10%;">巻・号</th> <th style="width: 10%;">年月</th> <th style="width: 25%;">出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	無																																		
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								
無																																												

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
無			
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
無			
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			


* 課題番号	高共 07-001
--------	-----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 6 月 25 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 _____ 梅田 高司 

所属・資格 _____ 習志野高等学校・教諭

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注: 該当する種目を○で囲んでください。																									
2 研究課題	ネットワークを利用した情報共有に関する研究																										
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 梅田 高司 データベースサーバ構築と情報公開に関するガイドラインの研究 ・研究分担者 (役割分担) 小松 誠 グループウェア設計と情報公開に関するガイドラインの研究 佐藤 深雪 情報共有とユーザインタフェースに関する研究 大内 久子 情報共有とユーザインタフェースに関する研究 																										
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">発表者名</th> <th style="width: 25%;">学会名</th> <th style="width: 25%;">発表テーマ</th> <th style="width: 25%;">発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																					
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																								
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">著者・執筆者</th> <th style="width: 30%;">著書名・雑誌名/論文名</th> <th style="width: 10%;">巻・号</th> <th style="width: 10%;">年月</th> <th style="width: 25%;">出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>梅田高司, 小松誠, 佐藤深雪, 大内久子</td> <td>平成21年度日本大学習志野高等学校研究紀要 ネットワークを利用した情報共有に関する研究</td> <td>創設80周年記念号</td> <td>平成21年5月</td> <td>日本大学習志野高等学校</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	梅田高司, 小松誠, 佐藤深雪, 大内久子	平成21年度日本大学習志野高等学校研究紀要 ネットワークを利用した情報共有に関する研究	創設80周年記念号	平成21年5月	日本大学習志野高等学校															
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																							
梅田高司, 小松誠, 佐藤深雪, 大内久子	平成21年度日本大学習志野高等学校研究紀要 ネットワークを利用した情報共有に関する研究	創設80周年記念号	平成21年5月	日本大学習志野高等学校																							

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
能勢いずみ	授業補助 DVD	中和滴定	1
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			